

# 3つの活動組織が連携して取り組んだ広域柵の設置計画

## 栗原市栗駒沼倉地区

### 地区の概要



イノシシ

- ・滝ノ原地域保全会、東向地域環境保全会、西向地域環境保全会の、3つの地区からなる。
- ・それぞれの地区の圃場で別の地区の農業者が耕作していることもあり、共同で対策を計画することになった。
- ・主な農作物は水稻。

### 取り組み前の状況

#### ● 環境

- ・三迫川の両側に広がる、ほぼ平坦で見通しが良い圃場地帯。山側も川側も、圃場とはっきり分かれた環境。
- ・東向、西向地区ともに、山側には用水路が流れている。
- ・東向の川側は、国道と河川堤防が複雑に交差しているため、境界には注意が必要である。



平坦な圃場地帯



山際を流れる用水路



国道と河川堤防

#### ● 被害と対策

- ・全ての地区で、水稻被害や周辺の掘り起こし被害などが発生していた。
- ・滝ノ原地区では、圃場周辺にワイヤーメッシュ柵を設置（令和3年度）しており、効果を得ている。
- ・東向や西向地区では、電気柵やネット柵、有刺鉄線、反射テープなどが設置されていた他、犬の毛や石鯰をネットに入れて吊るす方法が広まっていた。



イノシシによる掘り起こし被害



滝ノ原地区のワイヤーメッシュ柵



ペットボトル風車や石鯰での対策

## 取り組み内容

### ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- ・生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・初めは、対策の方向性について意見が分かれていたが、複数の対策イメージを示したことで、集落ぐるみで取り組んだ方が効率的であることが共有された。



最初に複数の対策案を示すことによって  
対策のイメージが共有しやすくなる！



提案した対策イメージ案

### 集落点検

### ワークショップ② 集落点検マップ作成と対策案の検討

- ・被害状況や移動経路、誘引物などの現状を把握するため、集落内を点検。
- ・現地で記録した情報を地図に落とし込み、現状を共有した。

集落点検前に設置イメージを共有しておくことで、集落点検と設置ルート検討が同時にできる！



集落点検の様子



作成した集落点検マップ

### ワークショップ③ 対策計画の作成

- ・個別の圃場などを除き、ワイヤーメッシュ柵で集落全体を囲うように、合計で20km以上の設置計画となった。
- ・東向地区は距離の問題などにより、令和5年度と6年度の2ヶ年で設置する計画に。



全体計画図 (図中の距離は地形の起伏などを考慮していない)

## 成果と取り組みのポイント

#### ❖ 山際の用水路の活用

ワイヤーメッシュ柵を用水路沿いに設置することで、弱点である地際からの侵入を防ぐことができ、これによって、イノシシによる侵入は基本的になくなる。さらに、ワイヤーメッシュ柵と用水路の維持管理は同時に行うことができるため省力化が期待できる。

#### ❖ 環境が共通する地域単位で計画

河川沿いや平野部などの連続した圃場があるような地域では、集落単位で計画を立てた場合に対策が分断してしまい、非効率的な設置や、継ぎ目から侵入されてしまう可能性がある。集落よりも広域なスケールで計画を立てることで、対策の選択肢を広げ、効果的な対策を打つことができる。